

11. 消化管、肝胆膵の疾患

文献

河野貴絵、田村沙織、井上清子. 排便困難に対するツボ刺激の効果 *母性看護* 2007; 38: 74-6. 医中誌
Web ID: 2008110602

1. 目的

ツボ刺激の褥婦の排便コントロールに対する有効性評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

済生会京都府病院、京都、日本

4. 参加者

2006年8月2日～10月2日に正常分娩をした褥婦40名、各群平均年齢 29.1 ± 4.81 歳および 30.9 ± 5.22 歳。

5. 介入

Arm 1: ツボ刺激群 (20名、平均年齢 29.1 ± 4.81 歳)。刺激部位は左右の足三里 (ST36) と三陰交 (SP6) とし、分娩翌日から5日間、1日2回約1分ずつ圧迫刺激。実施時間は午前10時前後 (看護師または助産師が施行) および21時前後 (自身で施行) とした。

Arm 2: コントロール群 (20名、平均年齢 30.9 ± 5.22 歳)。介入なし。

6. 主なアウトカム評価項目

便秘評価尺度 LT 版 (Constipation assessment scale: CAS) および緩下剤を使用した人数

7. 主な結果

Arm 1 の CAS 得点は、Arm 2 に比べ有意に低かった ($P < 0.05$)。また、緩下剤を使用した人数はツボ刺激群に比べコントロール群で有意に多かった ($P < 0.05$)。

8. 結論

足三里、三陰交に対するツボ刺激は褥婦の排便コントロールに有効である。

9. 鍼灸学的言及

足三里、三陰交に対するツボ刺激が有効であった機序として、ツボ刺激に腸蠕動を亢進させる効果がある可能性について言及している。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

分娩後の褥婦が薬剤に頼らずツボ刺激によって便秘を解消できるかを臨床試験によって検証しようとしたもので、本研究の成果は褥婦にとっては大きな福音となると思われる。しかしながら、被験者の募集方法、セッティング、ランダム化の方法、割付けのフローチャートなどに関する記載が十分ではなく改善の余地がある。詳細な報告が期待される。

12. Abstractor

春木淳二 2011.9.9